

和歌山県立桐蔭高等学校

「ロケットの町串本」を中心とした和歌山県における宇宙教育の実践



国指定史跡・和歌山城の天守

伝統と自主性で進めるロケット研究

全国屈指の「ロケット強豪校」

本州最南端・串本町に日本初の民間ロケット射場「スペースポート紀伊」が完成した和歌山県では、2020年に「和歌山県宇宙教育研究会」を発足させるなど、県を挙げて宇宙教育に取り組んでいる。なかでも、県内各地でモデルロケット教室を開催するなど活発に活動しているのが和歌山県立桐蔭高等学校の科学部だ。同部は、模擬衛星で独自に設定したミッションを遂行する「缶サット甲子園」で2度の全国優勝を誇るほか、JAXA 宇宙教育センターの水ロケット大会で日本代表に選ばれるなど、「ロケット強豪校」として知られる。

そんな部の特徴は、研究会事務局長でもある顧問の藤木郁久教諭が「私は“場”を提供するだけで、活動は部員任せです」と話すように、徹底した自主性にある。



部員総数は缶サット班25人、中学生部員45人の大所帯



串本町で開催されたモデルロケット教室



缶サット甲子園和歌山地方大会(2023年7月)

受け継がれる技術と自主性

たとえば、2年の渡邊凛人さんは「毎年4月に2年生が缶サットのミッションを決め、製作を始めます」と言うが、藤木教諭は「私は大会まで内容を知らないこともあるほどです」と、活動には関与しない。一方、1年生は「スタッフとして参加し、いろいろと学びながら次年度に備えます」(1年・寺田侑史さん)と言うように、先輩からの活動の継承も自主的に行われている。

こうした自主性は、1年の貝尻遼さんや音羽優さんら多くの部員が「科学部のことは小学生のときに参加したロケット教室やロボット教室などで知っていて、桐蔭入学のきっかけになりました」と口を揃えるように、科学部への強い思いから生まれたものだ。そんな思いは、中高一貫校であるため中学生部員たちの間でも共有されており、中学2年の田中春翔さんが「高校で缶サット甲子園に出るのが楽しみ」と言うように、挑戦意欲とともに継承されている。(プログラム助成)



自治体などからのモデルロケット教室の依頼が急増している



缶サット甲子園でのプレゼン。ミッション設定やプレゼンも重要な評価基準



●実施担当

藤木郁久 教諭

●活動のモットー

生徒ができるだけ多くの刺激を受けられるように、各分野の専門家など、いろいろな大人と接する機会を設けるようにしている。

学校概要



「文武両道」の校訓と、主体的な学びによる「改革と伝統」を重んじる中高一貫校。旧制和歌山中学から続く県下屈指の進学校。

設立: 1879年
生徒数: 830人
所在地: 和歌山県和歌山市吹上5-6-18

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索

